

磐城公論

時局警見

如何なる樂天者流と雖も、現下の時局—世界と日本と、そして郷土石城の時局を深觀凝視しては、無量の感慨に耽らざるを得ない。

而も憂慮すべき事實が生々しく街頭に横はつて居る。こゝには、しばらく世界と日本に關する時局觀はさておき、郷土石城に係はる時局を警見しやう。

今次の議會に於て尾崎、野澤氏は、所謂政治、經濟、思想國難を提唱して、現下の日本は、此の三大國難に直面して、危機に頻すと血叫された事は、未だに吾れらの記憶に新しくしきものである。

當時、議員の爭奪に血迷つた政府與黨も在野黨も、斯の尾崎氏の提案に對しては無條件にて絶對承認した。さて余は、その後約半歲、國內の事實—政治的、經濟的、思想的—を觀察するに及んで、先覺者、野澤氏の豫言的警告に對して滿腔の敬意を表するものである。

何が故に? 一言にして云へば、脚下郷土石城の現實が小國難—郷難に直

毎月(二回)十五日、三十日發行
編輯兼發行人 山田政好
印刷所 加納活版所
發行所 磐城公論社
廣告料 五號活字 行五十錢
定價 一部十錢 一年四圓四十錢

政治郷難

(1) 政治郷難

石城の政治家は低級なる政治思想の持主が多い。最新の政治思潮を理解し、普選青年と共に政治を上下し、理論闘争し得る政治家が少くない。

その多くは、政黨を背景とする銀行、會社等の經濟鐵壁に割據し、或は寄生して、羊の如く温良なる一般大衆の利益と幸福を壟斷し、「我こそは天下の大政治家也」と自己陶醉の夜樂の魔夢に耽る。

世界思想の洗禮を受けたる、政黨政治家を管見するならば、彼の胃袋には金の柱が林立し、彼の心中には虎狼が横臥し、彼の身邊は「わた山の大将」の如く、有象無象の家来の子郎黨が擁護してやまぬを見るであらう。

さてその反對黨の闘將及び闘士を彈撃する手段と方法に至つ

ては、暗夜に毒矢を射る如き、悪辣、陰險を極めてやまぬ。「政治郷難」の到來する又當然であり、必然であらねばならぬ讀者諸君! 所謂石城の政黨屋が、マキャベリストであり又政治郷難の製造卸問屋であるか、記者が一例證を挙げずとも、幾多の生々しき現實は、最も雄辯に裏書してやまぬではないか!

思想郷難

明治より大正、そして昭和へと時代は目まぐるしく流轉した。さて現代のマルクス、ポーター、モダン、ガールを、街頭に發見するに至るまで、日本とその青年は、未曾有の思想受難に遭遇した。

近代の世界思想と人生問題は、幾多の思想青年を如何に煩悶せしめ、又懊惱せしめた事か? 狂風怒濤の如く推し寄せ捲き返す世界思想の急潮に掉したる明治の新人は、今や化石したる頭腦の所有者となりつて、共に、現代の思想を談するに足らずとして、昭和の新人より排斥せらる。

昭和新人のモットーや、スロガン、何ぞ夫れ勇敢にして、理論闘争的なるや?

經濟郷難

われらの如く化石したる明治大正の舊新人には、ナカノノに理解し兼ねる思想と傾向と時感が多量に、豊富に、新思想中に横溢し、充滿して居るを痛感する。

天保の心を抱き、明治の思想を以つて、昭和に生きんとするは、是れ一個の思想的悲劇の發生にして、時代錯誤だ。現代かゝる舊封建思想と時代錯誤精神を以つて、當代の事物を處理し、現代の社會問題、思想問題、政治問題を解決せんと横車を押す頑迷者過多にある。新舊思想の正面衝突頻發してやまぬ破目となる。延いては、官民の不和を醸す事となる。

最近數年來、石城の天地に頻發し、續發してやまぬ勞働爭議や、其他の社會問題は如實に這般の真相を物語つてやまぬデハナイカ!

更に銀行會社等の金融機關を濫用して、一般大衆に若痛を不幸と迷惑を與へ、私有財産を合法的に隱蔽し諸有贅味三昧に耽溺するものあるに、他方には正直にして勤勉、額に汗して動らく善良なる中産、無産階級の人々は、生活不安に脅威され、愛子を人肉市場に賣りてまでも所謂不義理の負債を拂ふものもあるに至つては、如何に思想善導、社會改善を鳴物入りにて騒ぎ立て、も駄目ではあるまいか!

思想的、小國難—郷難打開の途果して如何?

記者は今日まで文筆勞働に従事して滿七年になつたが、しかし、斯の「經濟郷難」の一題目を書く位、不快な、陰氣な心を抱いて、文を草した體驗をもたない。全く嫌厭すべき気分と、幽かな憤激の感情を以つて執筆する次第である。さばれ全石城人は、「經濟郷難」に直面して、深刻に苦悶しつゝしてゐる。

經濟郷難發生の原因

一、世界大戰終了後、世界の富は米國に集中せられ、歐洲の戰勝國も、戰敗國も、經濟的に、財政的に破綻し我日本も亦その影響を蒙り今日の如き經濟國難に直面した。是れ經濟郷難の國際經濟的原因。

二、關東大震災による國富の消滅は延いて、一般國家經濟を萎微沈滞せしめ(一)の原因と相俟つて不景氣の度を増し深刻化せしめた。是れ經濟郷難の國家經濟的原因。

三、一、二の相對的因果關係よりして、財界不安定の度は益々加はりやがて、帝都數十銀行の休業、倒潰突發し、その餘波、地方の經濟岸壁を襲ひ、地方小資本、不健實經營の各銀行は休業をなした。

四、石城に於ける經濟郷難の第一の原因は、磐銀休業たるは十目に見る所、十指の指す所、夫れ嚴なる裁である。

五、更に最近、平銀、磐銀合併決裂は、經濟郷難の程度を愈々平面的に廣く、立体的に深く、時間的に長く、數學的に多數多量に道德的には邪惡になつたかの感を抱かされる。

今や全石城人は經濟郷難の苦海に浮沈して、その經濟心理は極度に緊張し、全神經を過敏にしてゐる。

此の秋、此の際、記者は純生郷土人として、郷土に捧ぐ殉郷の熱思より、一意財界安定促進を計つてやまざる。徒らに筆を構はて無名の戦を挑むを好まず。

殊には、某縣議、赤誠を披瀝して、財界安定のために盡力せらる、あり、一度は意を決したる惡德經濟人彈撃の

筆劍を收むる事とした。國難來! 郷難來!! 昭和青年の責務は重且つ大だ。國難、郷難打開のため決死的覺悟を以つて、新愛國運動、新報郷運動の第一線に起たうではないか!

郷難打開論

辭達せず、文盡さず、不日ムフレットを公刊して、大衆輿論の審判に訴へん心算であります。(十九日記)

福島縣平町 釜屋商店

電話 九三九番

福島縣平町 山崎合名社會

電話 二七〇番

郷土の産業革命に先驅する 小名濱とその人物及事業

石城の産業、経済は行き詰つた。野にも無遠慮に、明示されて来た。今や郡の心臓たる平町の眞た。人口は容赦なく増加する。只中に、突如、経済故障が惹起した。これによつて全石城の産業、経済上の行き詰りは、いよいよ深刻化して来たかの観がある。しかし、考へ様によつては、此の度の経済故障は、教訓であり、又試練でもある。此の位の事故を以つて、ヘコタレてしまふ様では世界の大日本人として國際經濟競場の雄者として、ジョンブル、ヤンキー、ゲルマニ等の紅毛魔族との争覇生活戦に勝者とはなれない。

さばれ、一路の窮まる所は萬路の通ずる所だ。不景氣のドン底に徹して、全石城人の誕生はある。郷土の石炭も採掘するだけ。郷土の地下を掘り抜いた。祖先の遺せる耕土も、小山の上まで耕作した。收獲漸減の方則は、山にも

登場した、前縣議小野晋平君は深觀先見する所あつてか、一時政界活躍を断念し、今や一個の事業家として専心事業に没頭して他を顧みない。

郷土、小名濱に於ける、小野君とその一黨の事業集團のものは、さまじき勢力は絶対壓倒的のものである。

故に往々にして物議を醸し、批難せらるゝ事もないではないが、しかし、一面郷土の産業、經濟の向上發展のため貢献する所大なるものがある事は、たとひ反對黨の人と雖も之を認めざるを得ない。

小野君の唯一の懐刀としての小野晋平君の快刀亂麻を斷つ怪腕奇手に至つては、敬意を表すべきか、敬遠すべきか、むしろ驚異すべく恐怖すべきである。同君にとりて、小名濱は活動舞臺として、豆大の天地の觀なきか反問する。海岸軌道會社支配人、丹野寛

大敷網と捕鯨會社

豊間大敷は、越後健兒の經營する所、小名大敷は、白井一門の純生郷土人の手に依つて經營せられる。

記者は黨派的偏見を排して、事業を直視するものだ。經濟的は石城人の手により一高唱するものだ。

かゝる意味よりして、小名大敷網の事業を推讃するものであらず。殊に、代表者、郡司二郎君

立花雄七君

漁業組合長

漁獲高年額八十萬圓、太平洋の狂瀾怒濤を越えて、勇敢なる漁人諸君は闘ふ。

その獲物は漁業組合の手を経て取引される。

立花雄七君は、春秋に富む青年者であるが、漁業組合長として、快腕を揮つて居る。乙女の如き純眞なる感情の持主、術策と偽善を絶排して一路正道を突進してやまぬ無産者の親友として、漁夫諸君より絶対の信任を博す、君の前途多幸多望。

漫想

眞正なる愛國主義者は、四面楚歌の逆境に墮してはたとひ死守すべき巖頭の一角あらば彼は祖國の旗を高く掲げて最後の一人となつても勇敢に戦ふであらう。

郷土の土の香に親しみ、祖元の遺せる一頃の耕土を固守して、搾取と重税に苦闘し乍らも、純生郷土主義者の過激なる筋肉労働は、續けらるゝであらう。

地下三千尺に働く他來の地下人も、石炭を採掘し盡して東西南北に勞友と分袂する時廢坑の上に在んでの感慨や如何

小野晋平君と其一黨の事業集團

一度縣會座の花形役者として

豪、デッケンズ作、クリスマスカロルに現れ来るスクールジョウの幽靈にあつてもピクともしない度胸の持主ではあるが、やがてクリスマスの當日來らば翻然大悟一番するに相違ない。コ、半年が見ものだよ。等々。

獨彼れ更に放言して、曰はく獨眼専務や、鼓腹頭取、千之助専務、ムツシリニ専務等のパンクは、警、平、二大恒星を廻る遊星ではあるが、専務頭取の獨裁専制政治であるが故に、パンクの機密は彼一人と其の腹心が知るのみで、外界の何人にも知られない。ジャンバルジャンを見破つた

飛塚高次君

試験場長

飛塚君は、學究肌の人、試験場の樓上に隠據して、靜かに研究を續けて居る。やがて理學博士の榮冠は、君が頂上に輝く日もあらう。

株式平銀行 第六十四期決算報告 貸借対照表 資 産 (借 方) 現金預金勘定 三〇八、二、六〇〇 有價証券勘定 七三、四八三、〇〇〇 割引手形勘定 一五、七四、六〇〇 貸付金勘定 四、四一、七〇〇、三〇〇 貸付有價証券 六、四〇〇、〇〇〇 他 店 貸 二五、七八八、九〇〇 動産不動産勘定 二、九八四、〇〇〇 株主勘定 七五、〇〇〇、〇〇〇 合 計 六、三三〇、二四三、六〇〇 負 債 (貸 方) 預金勘定 三、六四二、〇四九、四〇〇 借用金勘定 四、〇〇〇、〇〇〇 他 店 借 三、〇〇〇、〇〇〇 株主勘定 六、三三四、〇〇〇 合 計 六、三三〇、二四三、六〇〇 利益金勘定 一金八萬五千參百拾圓也 之ヲ處分スルコト左ノ如シ 金貳萬圓也 諸積立金 金參千圓也 重役賞與金 金貳萬八千貳百圓也 (年七分五厘強)配當金 金參萬四千百拾圓也 後期繰越金 右之通りニ候也 昭和三年六月三十日 株式平銀行 專務取締役 山崎與三郎 頭 取 木村 清治 取 締 堀江 正直 取 締 高岡 唯一郎 常任監査役 新田善次郎 監 査 役 吉田 禮次郎	石城郡銀行組 工榮商會 佐々木健一郎	豊間大敷網事務所
---	--------------------------	----------